



2014 年 (平成 26 年) 12 月 **80 号**

CONTENTS

• トピックス

財務省 後期高齢者支援金の加算減算 後発医薬品使用割合も指標に追加を	1
---	---

• リレー随想 (豊原 善弘)

3

• 委員会活動 くすり相談委員会

5

• お知らせ

第 53 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	10
神奈川県秦野市 ～第 5 回 薬の講演会～	11
第 17 回近畿薬剤師学術大会 in 和歌山	12
第 76 回九州山口薬学大会 (長崎)	12
IGPA 総会	13
12 月イベント参加予定について	14
平成 27 年新年講演会・祝賀会の開催について	14
年末年始の休みについて	14

• 活動案内

15



財務省 後期高齢者支援金の加算減算 後発医薬品使用割合も指標に追加を

財務省は10月8日の財政制度等審議会・財政制度分科会で、現役世代が後期高齢者の保険料の一部を負担する「後期高齢者支援金」について、後発医薬品の使用割合が低い医療保険者の拠出額を多くする制度を2015年度から導入することを提案した。この制度はメタボ健診で被保険者の生活改善の取組が悪かった医療保険者の拠出額を多くする制度として導入済みで、後発医薬品の使用割合も新たに指標に加える提案だ。

後期高齢者医療制度の保険料は国、都道府県、市町村の公費が5割、高齢者の保険料が1割、残りの4割を「後期高齢者支援金」として国保、被用者保険の現役世代が負担している。

メタボ健診で医療保険者同士の取り組みを競わせるため、厚生労働省は健診や保健指導の実施率などの取り組みが悪かった医療保険者の後期高齢者支援金の負担割合を重くし、逆に取り組みが良かった医療保険者の支援金の負担割合を軽減する制度を導入した。15年度から実施の保険料に反映される予定だ。

財務省はメタボ健診の実施率に加え、後発医薬品の使用割合も支援金の加算・減算の指標に加えるよう求めている。現在は支援金の額が最大で0.23%変わる仕組みだが、後発医薬品の指標の追加導入で最大で1割の加減算を行うよう提案した。

財務省は医療保険者による後発医薬品の使用促進策として、先発医薬品を使い続ける被保険者に、後発医薬品に置き換えた場合にいくら薬代が削減できるかを知らせる文書を保険者が送付する「差額通知」に並ぶ制度として導入を期待している。

◇後発医薬品の数値目標 上方修正も要求

また17年度までの5年間で後発医薬品の数量シェアを60%以上とする厚労省

が掲げた数値目標について、目標を再設定し上方修正するよう求めている。

13年4月にフランス並みのシェアを目指し目標値を設定したが、財務省の調査によると、フランスはここ数年で70%を超える水準まで上がっている。6月に閣議決定した骨太の方針で「諸外国並みの後発医薬品普及率を目指す」との方針も盛り込んだことから目標を再設定して更なる高みを目指すべきと提案した。

さらに将来的な改革として長期収載品の保険給付額を後発医薬品に基づいて設定し、上回る部分を患者負担とする参照価格制度の導入も挙げた。

財務省主計局の宇波弘貴厚生労働第一担当主計は同日の財政審で「特許が切れた後の薬については、保険給付の範囲をジェネリックを基本として、患者があえて特許切れの先発医薬品を使いたいと選択する場合には、それを上回る部分は患者ご自身の負担にするという制度の導入を真剣に検討すべき」と述べた。



魚 と 私

ホスピーラ・ジャパン株式会社

代表取締役社長 豊 原 善 弘

魚と私は古い付き合いになります。物心ついた頃から父の故郷である和歌浦（和歌山市）の漁港でフカセ釣りを教えてもらい、ギンタ（ヒイラギ）や木端グレ（メジナの子供）などを良く釣っていました。小学生、中学生の頃は近所の幼なじみ達と近くの川や池でフナ、コイ、オイカワ、ヒブナなどを釣ったり、小遣いを貯めてはシロギスやガッチョ（メゴチ）を釣りに泉南の海岸に「遠征」したりして楽しんでいました。家では熱帯魚を初めとして様々な魚を飼育していましたし、食卓にはほぼ毎日のように魚料理がありました。このように、魚を見るのも、釣るのも、食べるのも、飼育するのも、全てが好きだったことが高じて（？）大学は水産学科に進学しました。最初の2年間の教養課程では高校の学習の延長のようで全く興味が湧かず、講義をサボっては鴨川にオイカワを釣りに行ったりしていて同級生や教授から呆れられていました。それでも3回生になると舞鶴の水産実験所に通うことが多くなり、実験所所属の漁船に乗って刺し網を張り、捕獲した魚の食物連鎖などを研究して大変充実した学生生活を送ることができました。

大学を卒業して製薬業界に入り、しばらくの間は釣りからは遠ざかっていましたが、相変わらず魚料理を食べるのは好きでした。1990年からアメリカのニュージャージー州に駐在することになり、現地での生活が始まりましたが、何が困ったかと言いますと当時のアメリカでは我々日本人の眼にかなうような新鮮な魚介類が手に入らなかったことです。人づてに情報を集めると、住んでいるところからすぐ近くの駐車場で毎週ボストンから新鮮な魚介類を運んできて売っているとのこと。早速行ってみるとなかなか新鮮な魚を売っていて、大変嬉しかったのを覚えています。興味深かったのは、彼らは本当に新鮮な魚を「Sashimi Quality」を言っていたことで、日本の「刺身」が「新鮮な」という

形容詞として使われていたのは嬉しい驚きでありました。

子供が小学生になった頃からは釣りは足場の良い防波堤が中心となり、サビキでイワシやアジをよく釣ったものです。この頃に妻が、「家でお寿司を握れたらいいね。」と言ったものですから早速「寿司職人修業」を始めました。物心ついたころから魚を見てきましたので、魚河岸に行って良い魚を選ぶのはそんなに苦労はしませんでしたし、それらを捌くのもそれほど苦労はしませんでした。難しかったのは、シャリを程よく握ることと、捌いた魚に江戸前の仕事を加えることの2点でした。シャリを握る技術は回数をこなすことである程度身につきましたが、魚に江戸前の仕事を加えるのは今も修業中であります。いかにして魚の味をいい形で引き出すか。白身魚は、山葵と醤油で食べるだけではなく、塩と酢橘、アサツキ・葱にポン酢、昆布ㄇ、など仕事を変えるとまた新しい味が引き出されますし、コハダは塩と酢の時間で味がかなり変わってきます。悩んだ時はだいたい行きつけの寿司屋で「技」を教えてもらっています。

寿司を握り始めて約10年。手前味噌ながらある程度の寿司は握れるようになってきました。そうなるともた何か目新しいものに取り組みたくなるもので、ここ暫くはウナギに凝っています。最初は魚河岸で養殖物を買っていましたが、どうしても天然ウナギに挑戦したくなりました。とは言え天然物は非常に高いので友人と一緒に釣りに行って、関東にいた頃には相模川の某所で結構釣れて満足していました。それを捌いて、串打ちして、炭火で白焼きにして、蒸して、更に今度はタレをつけて焼きます。串打ち3年、焼き一生と言われるだけあって理想の焼き上がりにするのは非常に難しいです。大阪に来てからはまだウナギ釣りには行っていませんが、是非とも紀ノ川で挑戦したいと考えています。シーズンが始まる新緑の季節を心待ちにしているこの頃です。

次号は、マイラン製薬㈱のランディー・スタインロフ社長にお願いします。

委員会だより

くすり相談委員会

くすり相談アンケート（平成25年度）結果について （日本ジェネリック製薬協会会員会社におけるくすり相談状況について）

I. 調査目的

当委員会では、くすり相談窓口における状況調査については平成15年（前々回）、平成20年（前回）と2度実施したが、前回の調査から6年が経過していること及び後発医薬品を取り巻く環境も大きく変化しており、情報提供の一翼を担うくすり相談業務も一段と多岐に渡り、その重要性が増している。

今般、会員各社において様々な情報提供を要請されている状況を整理し、問い合わせ窓口から見た情報提供のあり方を検討するため、くすり相談の現状等についてのアンケート調査を行った。

II. 回答企業

アイロム製薬㈱、岩城製薬㈱、大原薬品工業㈱、キョーリンリメディオ㈱、共和薬品工業㈱、日本ケミファ㈱、小林化工㈱、沢井製薬㈱、サンド㈱、㈱三和化学研究所、ジェイドルフ製薬㈱、全星薬品工業㈱、大興製薬㈱、大正薬品工業㈱、ダイト㈱、高田製薬㈱、辰巳化学㈱、長生堂製薬㈱、鶴原製薬㈱、テバ製薬㈱、同仁医薬化工㈱、東和薬品㈱、日医工㈱、日新製薬㈱、日東メディック㈱、ニプロ㈱、日本ジェネリック㈱、日本薬品工業㈱、光製薬㈱、ホスピーラ・ジャパン㈱、㈱ポーラファルマ、㈱陽進堂 計32社

III. 調査方法

調査期間は平成26年1月21日～平成26年3月20日の2ヵ月間、調査項目はその間の相談区分、相談方法、相談項目とし、その他各企業における相談対応状況等について調査を実施した。解析方法は調査期間2ヵ月間の総件数について集計・検討した。

IV. 企業対応状況

今回のアンケート調査に回答した32社の企業対応状況の概要は以下のとおりであった。

対応日は平日のみが24社、対応時間・対応方法は就業時間内のみが22社、フリーダイヤルを設置しているのは19社であった。また、対応窓口をくすり相談窓口に集約しているのが22社、対応は31社が自社で行っており1社のみ完全委託であった。

相談件数は以下のとおりで500件未満が15社と約半数と最も多く、5000件以上は4社のみであった。

相談件数

件数	会社数
500件未満	15社
500件-1000件未満	5社
1000件-5000件未満	8社
5000件以上	4社

V. 調査概要と前回までの調査との比較

第1回、第2回及び第3回となる今回の調査期間と回答会社は以下の通りで、調査時期は多少異なるが、期間はいずれも2ヵ月間なので、そのままの合計で比較した。

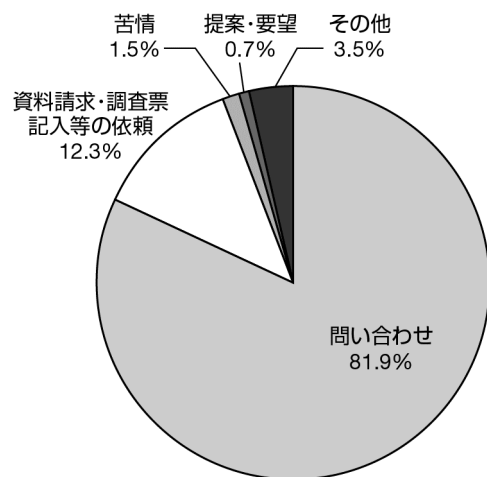
第1回：平成15年10月21日～12月20日	20社
第2回：平成20年1月15日～3月14日	34社
第3回：平成26年1月21日～3月20日	32社

相談件数は、今回54,028件であり、第2回調査31,466件の1.7倍、第1回調査7,019件の7.7倍の増加を示した。相談内容として「問い合わせ」が増えており、「苦情」はそれほど増えていなかった。今回の調査では新たに「資料請求・調査票記入の依頼」の項を設けたところ、6,654件で「苦情」や「提案・要望」より多かった。

VI. 相談の種類

相談の種類は「問い合わせ」が81.9%と最も多かった。

相談の種類

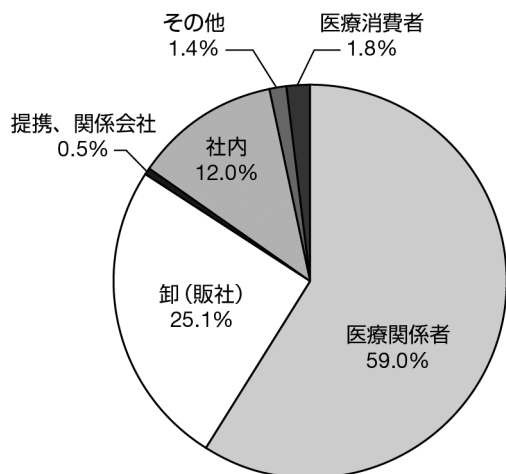


VII. 相談者の内訳

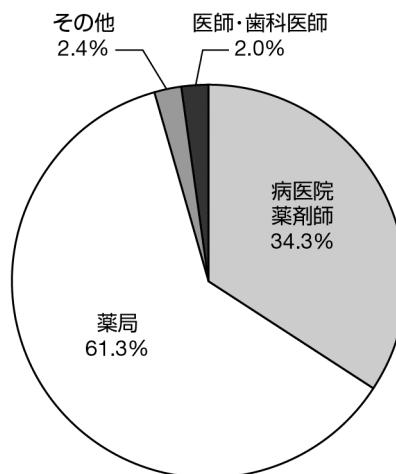
相談者は「医療関係者」が59.0%と最も高かった。

「医療関係者」の内訳としては、「薬局」が61.3%（全体の36.2%）、「病医院薬剤師」34.3%（全体の20.3%）であり、医療関係者の95%以上が薬局または病院の薬剤師からであった。

相談者の比率



医療関係者の内訳



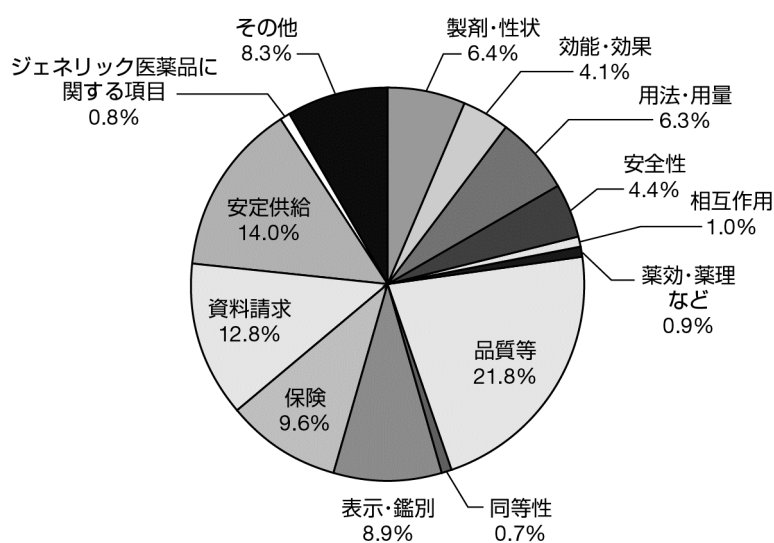
VIII. 相談方法

相談方法は「電話」での問い合わせが50,890件で全体の94.2%を占めていた。

IX. 相談項目

相談項目は「品質等」の問い合わせが13,086件で最も多く、全体の21.8%を占めた。次いで「安定供給」が8,372件で14.0%であった。

相談項目



1. 効能・効果、用法・用量及び安全性に関する問合せの内訳

効能・効果に関する問合せの内訳は、「効能・効果」が49%、「適応外」が22%、「その他」が29%であった。

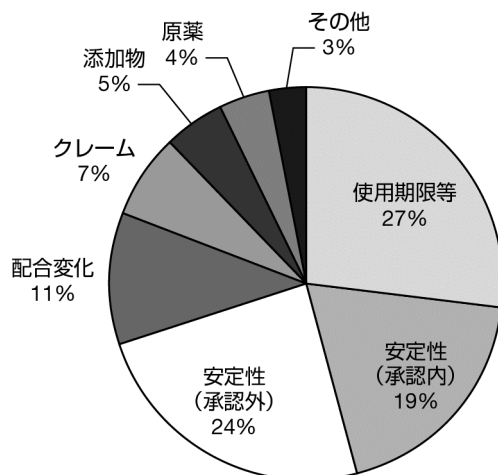
用法・用量に関する問合せの内訳は、「用法・用量」が75%、「小児用量」が9%、「その他(誤投与等)」が16%であった。

安全性に関する問合せの内訳は、「副作用」が69%、「妊婦・授乳婦への投与」が9%、「その他」が22%であった。

2. 品質に関する問合せ

品質に関する問合せの内訳は、「使用期限等」が27%、「安定性(承認外：無包装状態、粉碎後 等)」が24%、「安定性(承認内：加速試験 等)」が19%、「配合変化」が11%であった。

品質に関する問合せの内訳



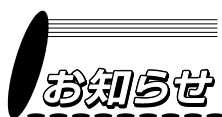
【まとめ】

2ヵ月間のアンケート結果から、相談件数が6年前の31,466件から今回54,028件と1.7倍の増加を示し、11年前の7,019件と比べると7.7倍増加し、後発医薬品の普及に伴い相談件数も大幅に増加していることが明確となった。

相談項目としては「品質等」の問い合わせが全体の21.8%を占め、既知である効能・効果よりも、後発医薬品の品質に関する問合せが多いことは頷ける。次いで「安定供給」が14.0%と「資料請求」の12.8%を上回ったことは、後発医薬品の安定供給に対し医療関係者が注目している現状を浮き彫りにしている結果となった。

今回のアンケートが、今後、後発医薬品製造販売会社としてどのように後発医薬品の情報提供を充実していくべきか考える一助となれば幸いである。

最後に、今回のアンケート調査にご協力頂きました企業の皆様に深謝致します。



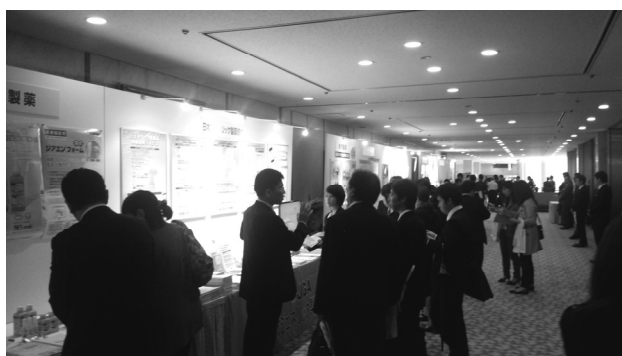
☆11月イベント参加報告について

○第53回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会

開催日：2014年11月8日(土)～9日(日)

会 場：広島国際会議場

今年の大会は、『基礎と臨床の協働 薬学・薬剤師職能の発展を目指して』をテーマに、病院薬剤師、開局薬剤師、薬系大学の教育研究者など1,825名が参加して開催されました。



当協会は『ジェネリック医薬品情報提供システム』の訴求をメインとしたブースを出展しました。ブースに来訪された多くの先生方に、本システムの活用方法を説明しました。システムを既に活用されている先生が全体の1～2割おられました。しかし、「ジェネリック医薬品の採用状況は如何ですか？」という問い掛けに、「積極的にジェネリック医薬品の採用を進めています。」と返事があるものの、まだ多くの先生に当システムの認知が広がっている状況ではありませんでした。実際にパソコンを用いてシステムの便利な点を説明すると、真剣に聞いて頂けるだけでなく、「こんなことは出来ないか。こういう情報は取れるのか。」という質問があり、多くの先生方が薬剤採用にご苦労されているのだろうと感じました。

年内は、残り2つの学会へ出展を予定しています。私たちの手で少しでも多くの先生方に、このシステムの認知を広げたいと思っています。

○神奈川県秦野市 ～第5回 薬の講演会～

開催日：2014年11月20日（木） 14：00～15：30

会 場：神奈川県秦野市役所 議会第1会議室
（秦野市役所・秦野薬剤師会共催）

講 演

・佐野友保（秦野市薬剤師会顧問）

「病気と薬」

・大坂谷良弘（日本ジェネリック製薬協会）

「国民皆保険制度の維持とジェネリック医薬品について考えよう」

秦野市の「薬の講演会」は5回目の参加で、今年は約40名の方にジェネリック医薬品について直接メッセージを送ることが出来ました。秦野市の医療費は約147.2億円（薬剤費29.6億円）で、10年前と比べて1.65倍と成っているそうです。国民健康保険の現状としては、加入者の高齢化や医療技術の高度化などにより保険給付費は年々増大し、秦野市の一般会計から国保財政の赤字補填分として、多額の繰入を行っているそうです。当協会が提供している『日本がもし1,000人の村だったら？』小冊子と同じ財政状況となっていて、この「薬の講演会」によって市民の健康増進とジェネリック医薬品の使用推進を図り、少しでも医療費適正化に繋げることを目的に開催されました。

薬剤師会の佐野先生からは「病気に成らないのが一番」ということで、病気に成り難い身体づくりのお話をとても分かりやすくお話して頂きました。

当協会の大坂谷氏からは、「国民皆保険制度の維持とジェネリック医薬品について考えよう」をテーマとした1000人村の紹介と、なぜ今ジェネリック医薬品の使用が求められるのか、また更に、いざ変更調剤という場面で迷うことのない様に、ジェネリック医薬品の正しい理解について説明を行いました。

質疑応答では、ジェネリック医薬品お願いカードの使い方や、調剤薬局で患者が何も言わなくてもジェネリック医薬品に替えるような仕組みになるとありがたいといった意見が出るなど、とても前向きなやり取りが行われました。

○第17回近畿薬剤師学術大会 in 和歌山

第17回近畿薬剤師学術大会 in 和歌山は「一意薬心 ～国民のための薬剤師をめざし原点を見直そう～」をテーマに掲げ、2014年11月15日(土)、16日(日)の2日間、和歌山県和歌山市の和歌山県民文化会館およびホテルアバローム紀の国で開催されました。当協会ではブース出展を行い、ブースに来訪された先生には情報提供システムの紹介を中心に、当協会の取り組み等を紹介いたしました。システムをご存知ない先生も多くおられましたが、情報提供システムについて高い評価をしていただきました。またジェネリックの調剤率についても高くなっているとの声もいただき、近畿地方においてジェネリックの使用促進が高まっていると感じられました。



展示ブースには多くの先生方が訪問され、盛況のうちに終了いたしました。

○第76回九州山口薬学大会（長崎）

平成26年11月23日(日)～24日(月)の2日間、長崎市において、「長崎からの発信 歴史を刻め、薬剤師～チーム医療・在宅医療・多職種連携へ薬剤師力の発揮を～」のテーマのもとに、第76回九州山口薬学大会が開催されました。

当協会は今回も本学会にブースを展示しました。当協会のブースでは「ジェネリック医薬品情報提供システム」を中心に啓発資料等を紹介し、先生方の様々な質問にお答えいたしました。ブースを訪れる先生方は既にジェネリック医薬品（以下GE）の使用に取り組んでおり、分野ごとのさらなる使用促進に向けた具体的な質問が多くありました。患者負担の少ないGEへの切り替え方法やDPC病院での医師への説得、病院、介護現場等のコメディカルの方のGE説明等、様々な相談をいただきました。当協会では患者負担の少ないGEに対しての使用意義を訴える「日本がもし1000人の村だったら？」やコメディカルの方が患者さんに説明できるGE説明パンフレット等を作成しており、これらを紹介するとともにGEメー

カーの製剤開発能力や品質維持、安定供給への取り組みを説明させて頂きました。

展示ブースでの対応者は約200名で盛会のうちに終了いたしました。

○ I G P A 総会

第17回 I G P A 年次総会が米国のマイアミにおいて、11月20、21日に開催されました。これには、ジェネリック医薬品業界関係者に加え、WHO、IMS 社などの講演者も含め、約200名が参加しました。各国のジェネリック医薬品業界の最新状況の発表とともに、同業界を取り巻く知的財産権関連の動向、国際貿易、規制の発展等について多くの講演が行われました。とりわけ、ジェネリック医薬品業界にあって大きなポテンシャルであるバイオシミラーに関する話題が多く出されたのが印象的でした。

GE 薬協からは11名が参加しました。GE 薬協の伏見理事長からは、日本の財政・人口・医療費・ジェネリック使用促進策、ジェネリックシェアの推移など、市場動向と日本の全体像を簡潔にまとめた講演を行い、参加者の関心を集めました。

なお、総会前日11月19日には、I G P A の内部委員会である運営委員会、国際貿易委員会、知的財産委員会、バイオシミラー委員会、科学委員会がそれぞれ開催され、各委員会で当面の諸課題について検討が行われました。

閉会講演において、カナダジェネリック協会のジム・ケオン会長より、次回第18回 I G P A 総会が2015年9月16～19日にカナダ・トロント市で開催予定である旨の紹介・発表がありました。

I G P A は現在、欧州、米国、カナダ、日本、南アフリカ、ヨルダンの6つのジェネリック医薬品の製薬業界団体が正会員として、ブラジル、台湾、メキシコ、オーストラリアの4つの業界団体がオブザーバーとして加盟しています。



☆12月イベント参加予定について

○市民すこやかフェア【一般向け】

会 期：平成26年12月22日（土）～23日（日）

会 場：みやこメッセ（京都市左京区）

本格的な高齢化社会を迎えるにあたり、「お互いに認め合い、支え合い、共に暮らす、まちづくり」を目指し、市民すこやかフェアが京都市左京区のみやこメッセで開催されます。当協会では、広く市民の皆様にジェネリック医薬品の理解と知識を深めていただくため、ブースを出展し、資料配付と説明を行うとともに、ジェネリック医薬品に関するご相談を受けることとしております。素朴な質問から専門的なお問い合わせに対応させていただくこととしています。

☆平成27年新年講演会・祝賀会の開催について

下記のとおり開催いたしますのでお知らせいたします。

日 時：平成27年1月21日（水）

新年講演会 16：30～17：50

講師：坂巻 弘之 教授（東京理科大学経営学部）

新年祝賀会 18：00～19：30

場 所：東京プリンスホテル2F「プロビデンスホール」

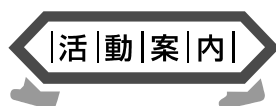
港区芝公園3-3-1 TEL03-3432-1111

☆年末年始の休みについて

下記のとおり、事務所を閉所いたしますのでご協力のほどお願い申し上げます。

平成26年12月27日（土）～平成27年1月4日（日）

※H26.12.26及びH27.1.5は平常通りです。



<日 誌>

11月 4日	総務委員会広報部会 J G A ニュース編集会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
"	総務委員会総務部会	"
11月 5日	MR 教育研修検討チーム	"
11月 6日	倫理委員会実務委員会	"
"	総務委員会広報部会イベント講演グループ会議	"
11月12日	常任理事会、理事会	"
11月14日	総務委員会広報部会原稿作成グループ会	"
11月17日	コード・オブ・プラクティス実務委員会	"
11月18日	薬事関連連絡会	東京八重洲ホール会議室
11月19日	総務委員会広報部会広告掲載グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
11月20日	くすり相談委員会	"
11月21日	安全性委員会幹事会	"
11月25日	薬制委員会幹事会	"
"	薬制委員会	東京八重洲ホール会議室
11月26日	総務委員会広報部会グループリーダー会	日本ジェネリック製薬協会会議室
"	添付文書ワーキンググループ	東京八重洲ホール会議室
11月28日	薬価委員会幹事会	"
"	薬価委員会	"
"	知的財産研究委員会	"
"	環境委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室

<今月の予定>

12月 2日	総務委員会広報部会原稿作成グループ会	日本ジェネリック製薬協会会議室
12月 3日	常設委員会委員長会議	"
"	50周年記念事業特別委員会記念誌発行委員会	"
"	文献調査検討会	"
12月 4日	総務委員会広報部会イベント講演グループ会議	"
"	総務委員会広報部会 J G A ニュース編集会議	"
12月 5日	総務委員会総務部会	"
12月 9日	製剤研究会	東京八重洲ホール会議室
12月10日	総務委員会広報部会グループリーダー会	日本ジェネリック製薬協会会議室
"	薬制委員会幹事会	東京薬事協会
12月12日	薬価委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
12月15日	安全性委員会幹事会	"
12月16日	流通適正化委員会	東京八重洲ホール会議室
"	薬制委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室
"	総務委員会広報部会広告掲載グループ会	東京薬事協会
12月17日	臨時理事会	ベルサール八重洲
"	MR 教育研修検討チーム	東京八重洲ホール会議室
12月18日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	"
"	薬事関連連絡会	"
12月19日	再評価委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室

／編／集／後／記／

街のイルミネーションが華やかに輝き始めると、今年も残り少なくなってきたことに気付かされます。皆様にとって、今年はどのような年であったでしょうか。夏の集中豪雨、10月の少し季節外れの強力な台風、御嶽山の噴火、長野県の地震など、今年も、異常気象や自然災害に心痛む事も多くありましたが、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録や「日本の手漉和紙技術」のユネスコ無形文化遺産登録と日本の技術や伝統工芸の水準の高さが世界的に注目される喜ばしいこともありました。

日本文化といえば、2008年に「能楽」、「人形浄瑠璃文楽」、「歌舞伎」がユネスコ無形文化遺産に登録されて以来、「雅楽」や「京都祇園祭りの山鉾行事」、「アイヌ古式舞踊」、着物の織の技術である「小千谷縮・越後上布」、「結城紬」などが続々と登録され、昨年の「和食」に続いて「日本の手漉和紙技術」が11月に登録されたことも記憶に新しいと思います。今回登録された「和紙」は2009年に既にユネスコの無形文化遺産に登録されていた「石州半紙」に「本美濃紙」と「細川紙」を加えて新たに「和紙」として登録されたものです。

地元栃木でも、「結城紬」がユネスコ無形文化遺産登録されたことから、もともと織物の産地である水戸線・両毛線沿線の結城⇒小山⇒栃木⇒足利⇒桐生⇒高崎⇒富岡を経由する関東のシルクロードが脚光を浴びつつあり、活気付いてきています。祇園祭りも今年は49年ぶりに、前祭、後祭の2回の巡行を行い、本来の姿に戻りました。

このように、少しずつ、日本独自の文化・技術が認められ、それを本来の姿に戻して継続し、こちらからも積極的に発信していく、そして日本が元気になっていくと良いなあとと思います。

JGAも「先発医薬品と後発医薬品の添付文書がなぜ欧米のように同じではないのか」を問題提起としてWTが立ち上がりました。政府が先発品からジェネリック品への使用を推奨する追い風にうまく乗って、より良い方向へ変化していく年にしたいものです。

皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

(K. I)

■編 集

日本ジェネリック製薬協会
総務委員会広報部会

■発 行

日本ジェネリック製薬協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-4

日本橋本町ビル7F

TEL:03-3279-1890 FAX:03-3241-2978

URL:www.jga.gr.jp